

# マルチン人体計測器に依る身体各部位の計測値と過去10年間（身長、体重、胸囲については20年間）の推移（女子短大生の場合）

## —第3報—

野村 晶子

### 目的

マルチン人体計測器を使って人体の基礎である骨から骨へと正密、立体的に計測し、最近10年間の女子短大生の発育値を報告し（身長、体重、胸囲については過去20年の値）、その推移を検討する。

### 方法

(1)対象は女子短大生で、1988年値はN=147名である。(2)計測器はマルチン人体計測器を使用した。(3)計測期間は昭和62年11月である。(4)計測部位は、家政研究第13号文教大学女子短期大学部家政科(1981年)の第1報に於いて報告した通りである。

### 結果

1988年値は、Table 1. に示す通りである。即ち、身長は、平均値158.8cm (S.D=5.10) である。

次に、

体重は、平均値50.5kg (S.D=2.80) である。

胸囲は、平均値82.3cm (S.D=4.26) である。

胴囲は、平均値66.1cm (S.D=3.50) である。

腰囲は、平均値83.8cm (S.D=3.95) である。

背肩幅は、平均値39.2cm (S.D=4.04) である。

背幅は、平均値33.3cm (S.D=4.04) である。

胸幅は、平均値34.8cm (S.D=4.44) である。

胸の厚み(横断面) 17.1cm (S.D=1.58) である。

胴の厚み(横断面) 14.7cm (S.D=1.57) である。

腰の厚み(横断面) 20.0cm (S.D=2.12) である。

手の長さ(1) (肩から中指先) 69.9cm (S.D=4.42) である。

手の長さ(2) (肩からひじ) 31.3cm (S.D=2.71) である。

手の長さ(3) (ひじから手首) 23.6cm (S.D=2.82) である。

手の長さ(4) (手首から中指先) 18.2cm (S.D=1.82) である。

手首廻わり 15.0cm (S.D=0.94) である。

首廻わり(1) (中央) 31.6cm (S.D=1.60) である。

首廻わり(2) (上部) 32.4cm (S.D=1.76) である。

首廻わり(3) (下部) 36.2cm (S.D=2.13) である。

首の長さ(1) (前部) 8.6cm (S.D=1.26) である。

首の長さ(2) (後部) 8.3cm (S.D=1.40) である。

皮下脂肪(背部) 1.4cm (S.D=3.00) である。

頭の厚み(横から測る) 17.1cm (S.D=0.24) である。

1979年値は、Table 1. 及び Fig. 1.~24. (54年度) に示した通りである。即ち、身長は、平均値は157.8cm (S.D=4.72) で、体重は、平均値は52.6kg (S.D=4.96)、胸囲は、平均値84.0cm (S.D=3.85)、胸囲は、64.1cm (S.D=3.51)、腰囲は、平均値90.2cm (S.D=3.09)、背肩幅は、平均値39.5cm (S.D=1.73)、背幅は、平均値34.1cm (S.D=2.83)、胸幅は、平均値37.2cm (S.D=2.88)、胸の厚み(横断面)は、平均値17.1cm (S.D=1.28)、胴の厚み(横断面)は、平均値14.5cm (S.D=1.09)、腰の厚み(横断面)は、平均値20.7cm (S.D=1.56)、手の長さ(1) (肩から中指先)は、平均値68.1cm (S.D=3.05)、手の長さ(2) (肩からひじ)は、平均値31.4cm (S.D=2.25)、手の長さ(3) (ひじから手首)は、平均値23.8cm (S.D=1.68)、手の長さ(4) (手首から中指先)は、平均値18.1cm (S.

Table 1.

No.	計測部位 (cm)	計測年度			1979年(54年)報(N=43)			1980年(55
		※1988年(63年)報(N=147)			Total	$\bar{X}$	S·D	Total
1	身長	23,236.2	158.8	5.10	6,783.8	157.8	4.72	6,589.5
2	体重(kg)	7,424.5	50.5	2.80	2,260.0	52.6	4.96	2,054.8
3	胸囲	12,094.7	82.3	4.26	3,613.6	84.0	3.85	3,385.6
4	胴囲	9,708.9	66.1	3.50	2,754.3	64.1	3.51	2,528.8
5	腰囲	12,311.8	83.8	3.95	3,880.1	90.2	3.09	3,582.1
6	背肩幅	5,757.1	39.2	4.04	1,698.9	39.5	1.73	1,643.8
7	背幅	4,892.0	33.3	4.04	1,465.0	34.1	2.83	1,402.4
8	胸幅	5,110.6	34.8	4.44	1,598.9	37.2	2.88	1,279.8
9	胸の厚み(横から測る)	2,510.3	17.1	1.58	733.6	17.1	1.28	691.8
10	胴の厚み( " )	2,154.5	14.7	1.57	624.8	14.5	1.09	579.2
11	腰の厚み( " )	2,947.2	20.0	2.12	890.0	20.7	1.56	759.5
12	手の長さ(1)(肩から中指先)	10,278.1	69.9	4.42	2,929.4	68.1	3.05	2,831.4
13	手の長さ(2)(肩からひじ)	4,607.1	31.3	2.71	1,350.6	31.4	2.25	1,317.0
14	手の長さ(3)(ひじから手首)	3,463.9	23.6	2.82	1,025.8	23.8	1.68	984.3
15	手の長さ(4)(手首から中指先)	2,676.0	18.2	1.82	777.0	18.1	1.03	761.8
16	手首廻わり	2,206.6	15.0	0.94	649.7	15.1	0.82	614.9
17	首廻わり(1)(中央)	4,640.9	31.6	1.60	1,359.6	31.6	1.48	1,308.4
18	首廻わり(2)(上部)	4,760.7	32.4	1.76	1,336.0	31.1	1.63	1,355.6
19	首廻わり(3)(下部)	5,323.6	36.2	2.13	1,541.1	35.8	2.27	1,495.6
20	首の長さ(1)(前部)	1,261.1	8.6	1.26	359.2	8.4	1.23	383.2
21	首の長さ(2)(後部)	1,219.0	8.3	1.40	322.5	7.5	1.05	368.3
22	皮下脂肪(背部)	212.5	1.4	3.00	67.9	1.6	0.30	62.6
23	頭囲	8,073.8	55.0	1.72	2,380.9	55.4	1.47	2,333.4
24	頭の厚み(横から測る)	2,513.6	17.1	0.24	739.9	17.2	0.87	717.7

1979年からの年度別計測値

※印 1988年報値

年)報(N=42)		1981年(56年)報(N=86)			1982年(57年)報(N=171)			1983年(58年)報(N=89)		
$\bar{X}$	S·D	Total	$\bar{X}$	S·D	Total	$\bar{X}$	S·D	Total	$\bar{X}$	S·D
156.9	4.51	13,553.9	157.6	4.69	26,927.2	157.4	4.30	14,065.2	158.0	2.20
48.9	3.91	4,388.5	51.0	6.26	8,703.3	50.8	5.65	4,495.4	50.5	5.58
80.6	3.64	6,989.1	81.3	3.36	13,988.3	82.0	3.73	7,245.2	81.4	3.93
60.2	2.19	5,362.4	62.4	4.17	10,645.5	62.2	3.73	5,439.6	61.1	2.93
85.3	3.44	7,522.6	87.5	4.21	14,984.8	87.6	4.00	7,782.6	87.4	4.02
39.1	2.56	3,264.9	37.9	2.91	6,607.6	38.4	2.60	3,518.5	39.5	2.63
33.4	3.69	2,863.0	33.3	3.85	5,730.4	33.5	3.66	3,090.8	34.7	4.20
30.5	6.99	2,843.9	33.1	3.89	5,722.6	33.5	4.89	3,344.7	37.6	4.55
16.5	1.02	892.0	16.8	1.84	2,317.4	16.8	1.57	1,479.5	16.6	1.38
13.8	1.21	1,268.9	14.8	1.58	2,472.9	14.5	1.46	1,244.9	14.0	1.21
18.0	2.00	1,701.4	19.8	1.98	3,350.9	19.6	2.04	1,760.3	19.8	1.88
67.4	3.11	5,796.1	67.1	3.89	11,556.9	67.6	3.71	6,224.7	69.9	3.71
31.4	2.29	2,632.3	30.6	2.22	5,299.9	31.0	2.24	2,762.7	31.0	1.64
23.4	1.79	1,915.1	22.2	1.59	3,925.2	22.9	1.71	2,070.8	23.3	2.96
18.1	1.16	1,502.6	17.5	1.12	3,041.4	17.8	1.31	1,570.8	17.7	1.02
15.5	1.14	1,254.2	14.6	1.03	2,518.8	14.7	0.57	1,326.5	14.9	0.81
32.0	1.55	2,583.5	30.1	1.53	5,256.5	30.7	1.66	2,774.4	31.2	1.86
31.8	1.52	2,639.5	30.7	1.83	5,331.1	31.2	1.90	2,870.5	32.3	1.79
36.7	2.62	2,965.7	34.5	2.25	6,002.4	35.1	2.37	3,212.7	36.1	2.08
8.6	1.02	717.1	8.3	1.42	1,459.5	8.5	1.39	768.7	8.6	1.23
8.8	1.35	701.9	8.2	1.17	1,392.7	8.1	1.23	745.4	8.4	1.20
1.6	0.20	120.7	1.4	0.35	251.2	1.5	0.35	127.6	1.4	0.55
55.6	1.22	4,704.1	54.8	1.27	9,418.4	55.1	1.53	4,887.3	54.9	1.23
17.1	0.64	1,492.8	17.4	0.78	2,950.4	17.3	0.76	1,517.4	17.1	0.99

1988年報身体各部位の計測値と1979年からの年度別計測値

Fig. 1. 身長

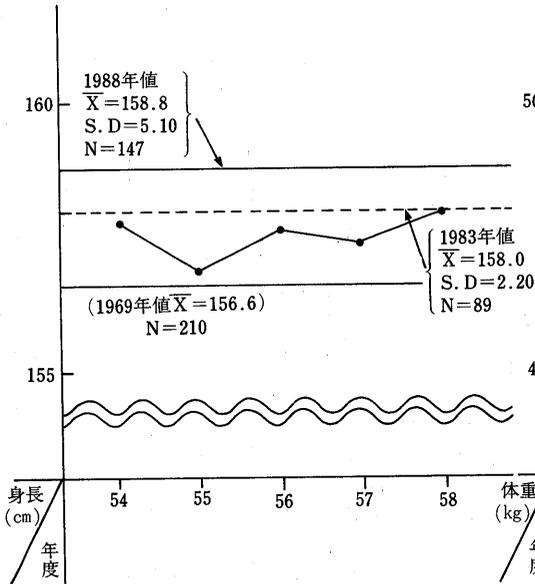


Fig. 2. 体重

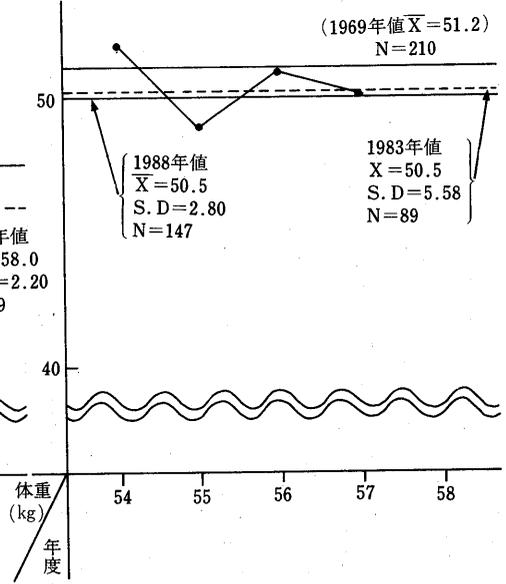


Fig. 3. 胸囲

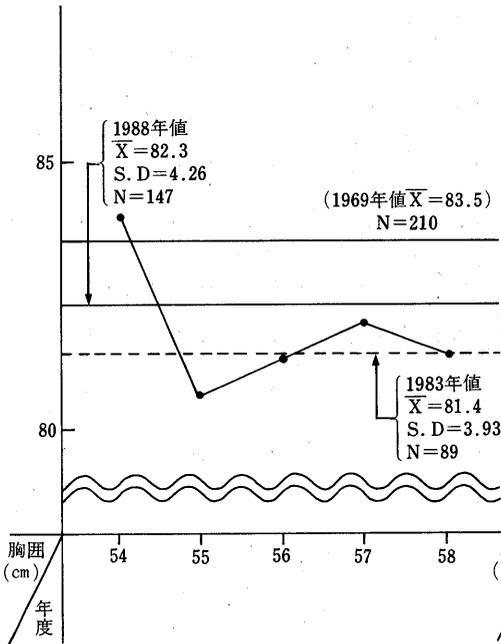


Fig. 4. 胴囲

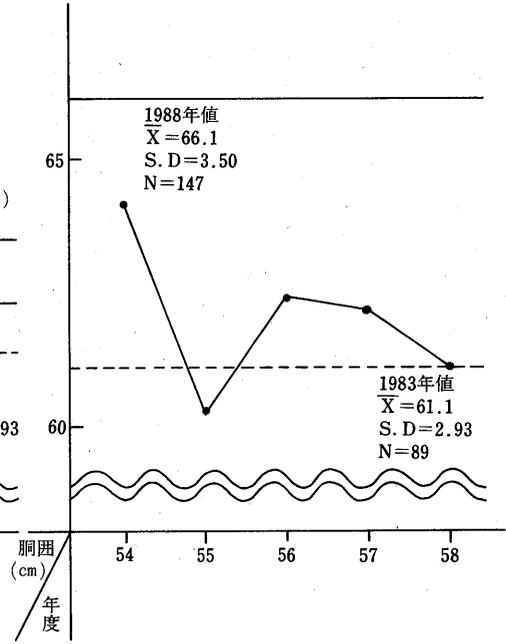


Fig. 5. 腰围

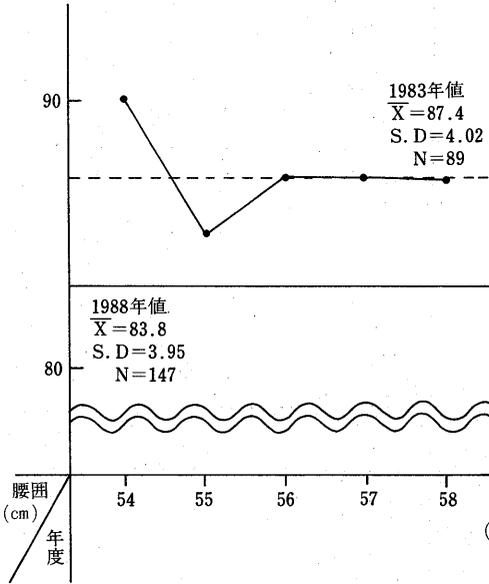


Fig. 6. 背肩幅

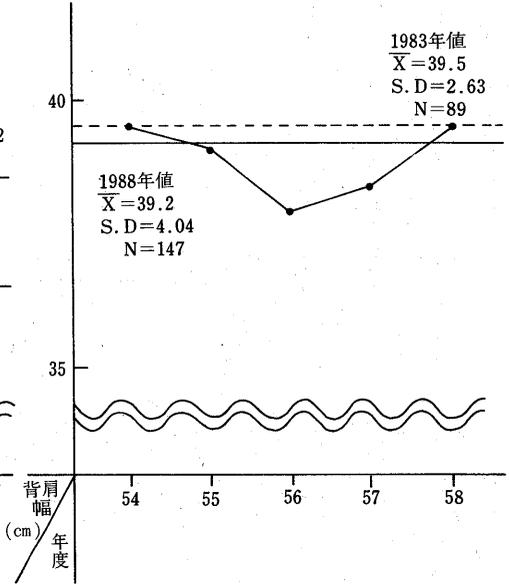


Fig. 7. 背幅

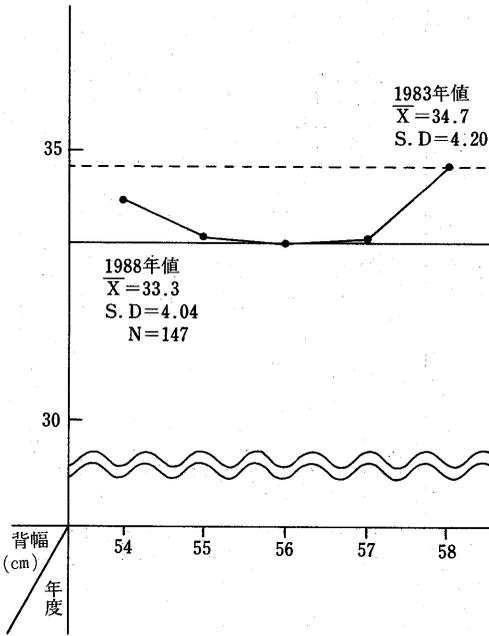


Fig. 8. 胸幅

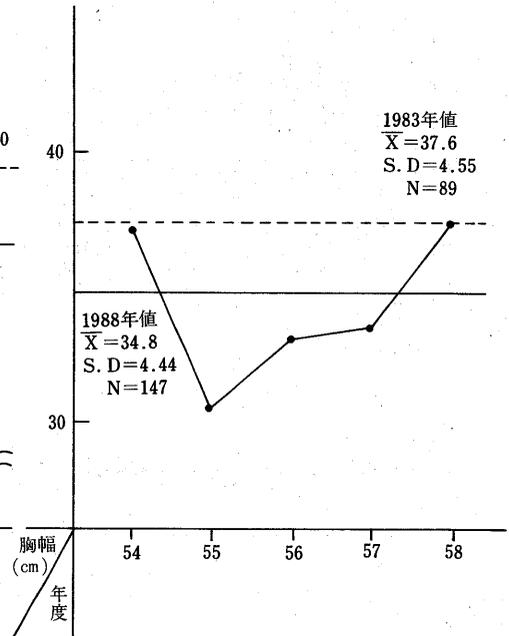


Fig. 9. 胸の厚み(横から)

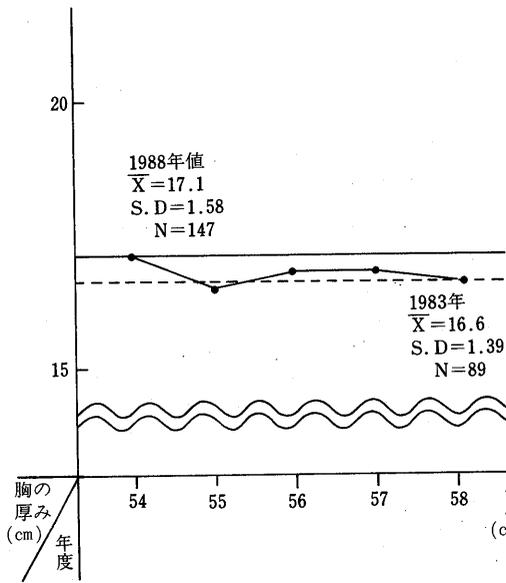


Fig. 10. 胴の厚み(横から)

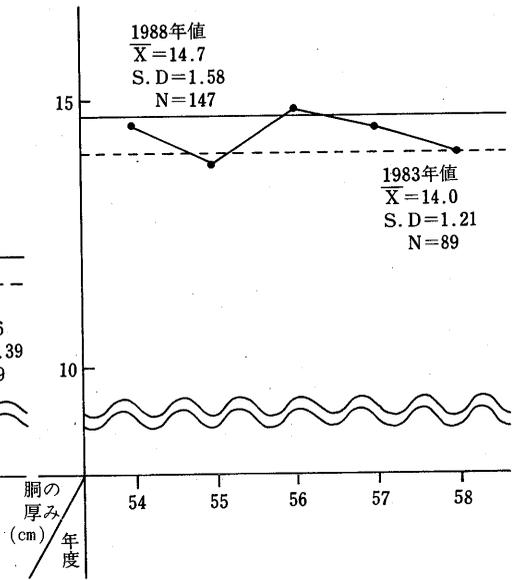


Fig. 11. 腰の厚み(横断面)

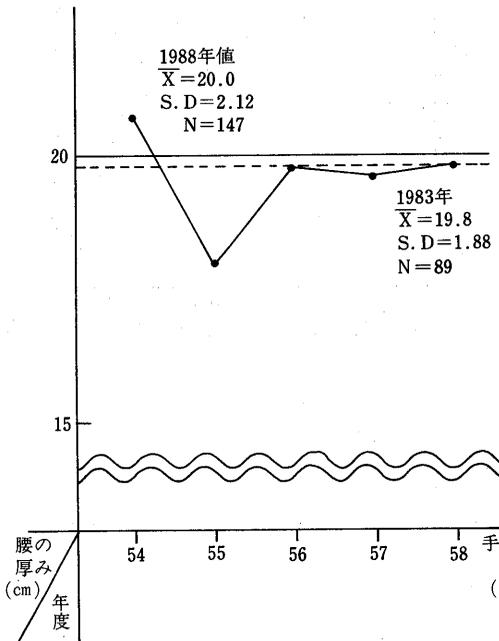


Fig. 12. 手の長さ(1)(肩から中指先まで)

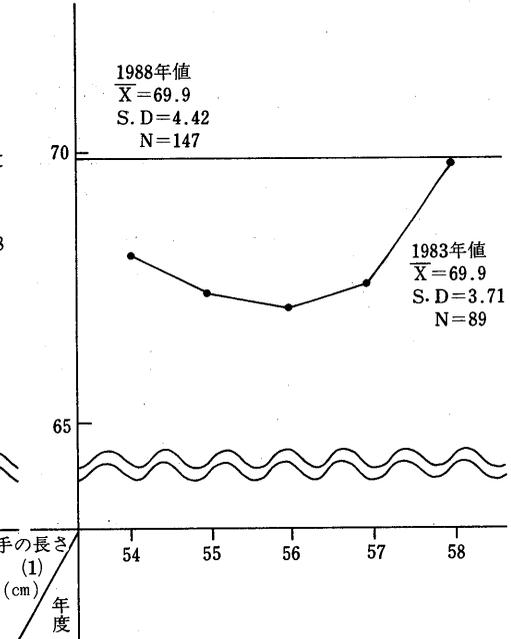


Fig. 13. 手の長さ(2)(肩からひじまで)

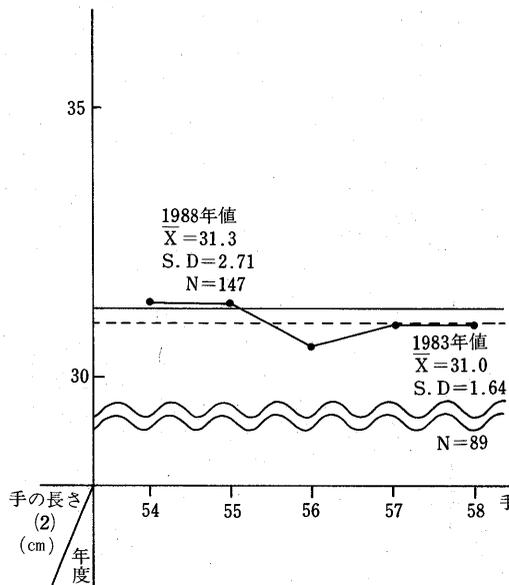


Fig. 14. 手の長さ(3)(ひじから手首まで)

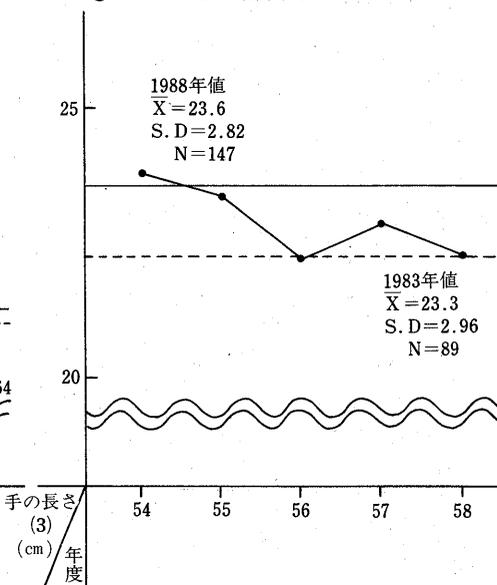


Fig. 15. 手の長さ(4)(手首から中指先)

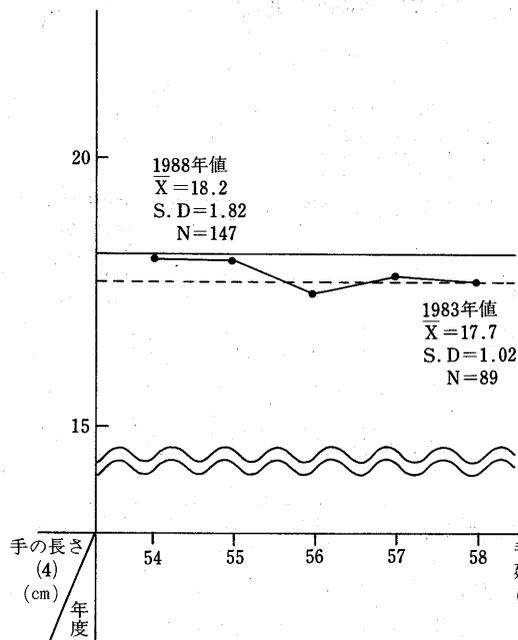


Fig. 16. 手首廻わり

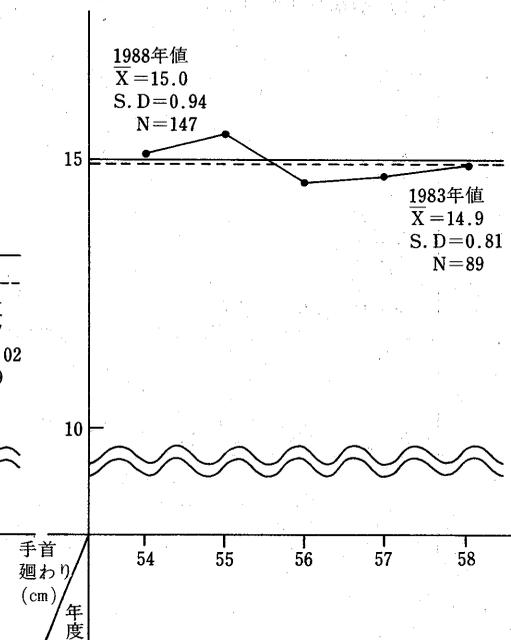


Fig. 17. 首廻わり(1)(中央)

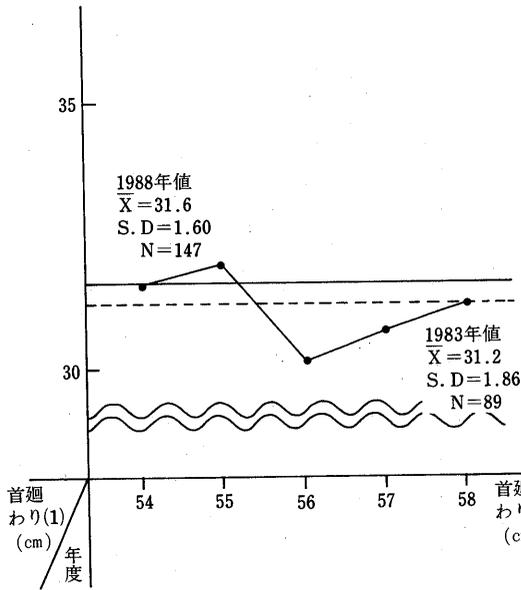


Fig. 18. 首廻わり(2)(上部)

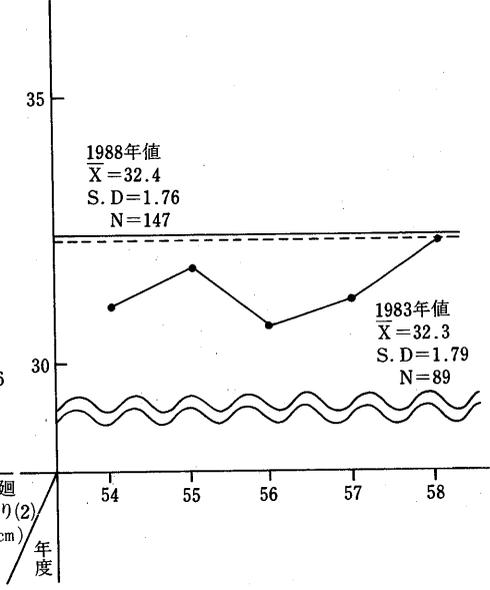


Fig. 19. 首廻わり(3)(下部)

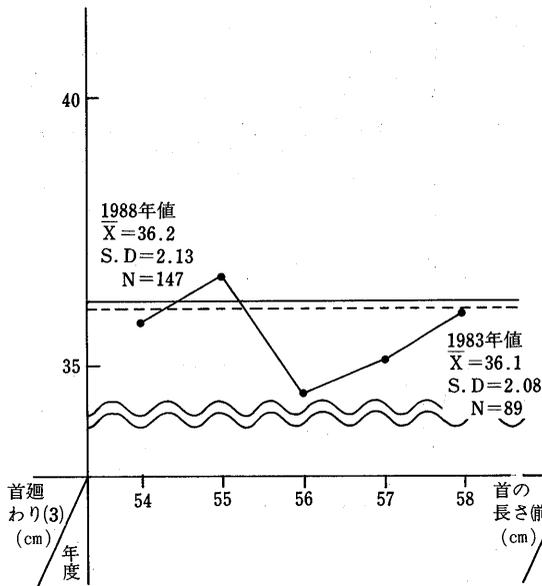


Fig. 20. 首の長さ(前部)

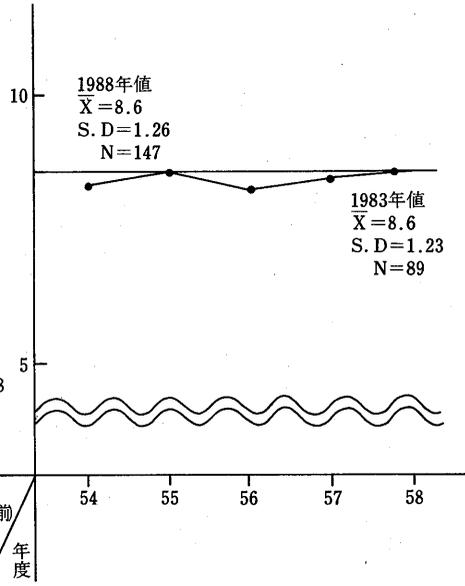


Fig. 21. 首の長さ(後部)

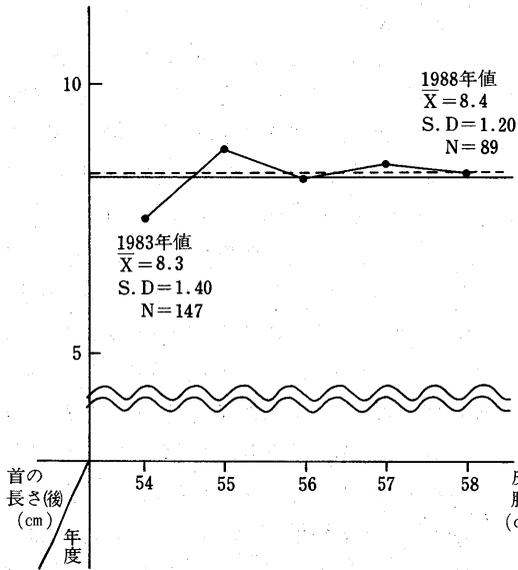


Fig. 22. 皮下脂肪

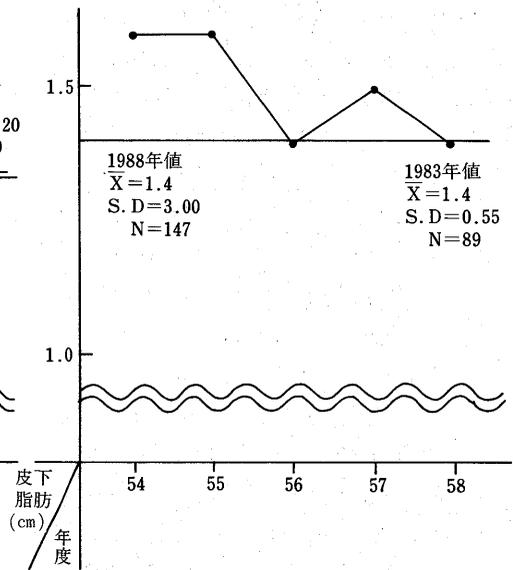


Fig. 23. 頭囲

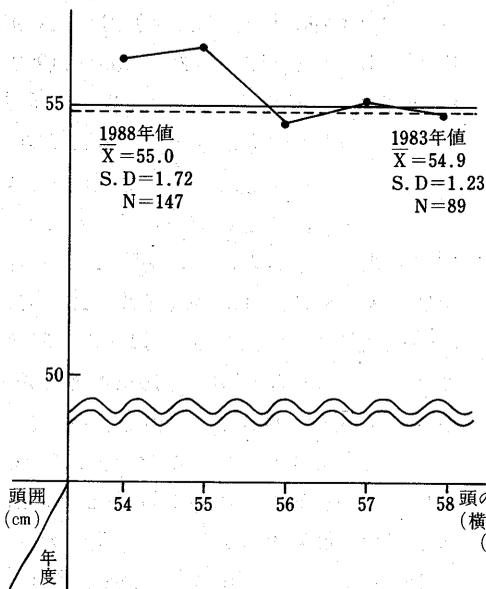
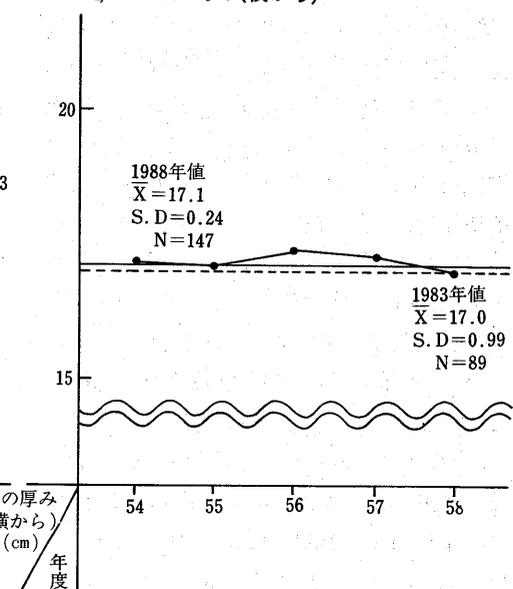


Fig. 24. 頭の厚み(横から)



D=1.03), 手首廻わりは, 平均値15.1cm (S.D=0.82), 首廻わり(1)(中央)は, 平均値31.6cm (S.D=1.48), 首廻わり(2)(上部)は, 平均値31.1cm (S.D=1.63), 首廻わり(3)(下部)は, 平均値35.8cm (S.D=2.27), 首の長さ(1)(前部)は, 平均値8.4cm (S.D=1.23), 首の長さ(2)(後部)は, 平均値7.5cm (S.D=1.05), 皮下脂肪(背部)は, 平均値1.6cm (S.D=0.30), 頭囲は, 平均値55.4cm (S.D=1.47), 頭の厚み(横断面)は, 平均値17.2cm (S.D=0.87) である。

次に, 5年以前の1983年度値は, Table 1. 及び Fig. 1.~24. (58年度) に示した通りである。即ち, 身長は, 平均値158.0cm (S.D=2.20), 体重は, 平均値50.5kg (S.D=5.58), 胸囲は, 平均値81.4cm (S.D=3.93), 胴囲は, 平均値61.1cm (S.D=2.93), 腰囲は, 平均値87.4cm (S.D=4.02), 背肩幅は, 平均値39.5cm (S.D=2.63), 背幅は, 平均値34.7cm (S.D=4.20), 胸幅は, 平均値37.6cm (S.D=4.55), 胸の厚みは, 平均値16.6cm (S.D=1.38), 胴の厚みは, 平均値14.0cm (S.D=1.21), 腰の厚みは, 平均値19.8cm (S.D=1.88), 手の長さ(1)(肩から中指先)は, 平均値69.9cm (S.D=3.71), 手の長さ(2)(肩からひじ)は, 平均値31.0cm (S.D=1.64), 手の長さ(3)(ひじから手首)は, 平均値23.3cm (S.D=2.96), 手の長さ(4)(手首から中指先)は, 平均値17.7cm (S.D=1.02), 手首廻わりは, 平均値14.9cm (S.D=0.81), 首廻わり(1)(中央)は, 平均値31.2cm (S.D=1.86), 首廻わり(2)(上部)は, 平均値32.3cm (S.D=1.79), 首廻わり(3)(下部)は, 平均値36.1cm (S.D=2.08), 首の長さ(1)(前部)は, 平均値8.6cm (S.D=1.23), 首の長さ(2)(後部)は, 平均値8.4cm (S.D=1.20), 皮下脂肪は, 平均値1.4cm (S.D=0.55), 頭囲は, 平均値54.9cm (S.D=1.23), 頭の厚みは, 平均値17.1cm (S.D=0.99) である。

1980年値 (N=42), 1987年値 (N=86), 1982年値 (N=171) についても, Table 1. に示した通りである。

## 考察

身長について過去10年間の推移をみると, 1988年値 ( $\bar{X}=158.8$ ) が最も高く, 5年前の1983年値 ( $\bar{X}=158.0$ ) を0.8cm上廻っている。又, 1979年値 ( $\bar{X}=157.8$ ), 1980年値 ( $\bar{X}=156.9$ ), 1981年値 ( $\bar{X}=157.6$ ), 1982年値 ( $\bar{X}=157.4$ ), いずれよりも身長の伸びを明確に示し, 又, 20年前の1969年値 ( $\bar{X}=156.6$ ) よりも2.2cmの伸びが見られた。又, 標準偏差は, 1983年値 (S.D=2.20) < 1982年値 (S.D=4.30) < 1980年値 (S.D=4.51) < 1981年値 (S.D=4.69) < 1979年値 (S.D=4.72) < 1988年値 (S.D=5.10) であり, 各年度に依って個人差に推移のあることもみられ, 特に1988年値では個人差が大である結果が示された。次に, 体重では, 1988年値 ( $\bar{X}=50.5$ ) は, 1980年値 ( $\bar{X}=48.9$ ) に次いで低く, 1979年値 ( $\bar{X}=52.6$ ) より3.7kgも低い値を示し, 殊に20年以前の1969年値 ( $\bar{X}=51.2$ ) よりも1.9kg軽くなっていることが示されたことになる。標準偏差からみると, 1988年値 (S.D=2.80) < 1980年値 (S.D=3.91) < 1979年値 (S.D=4.96) < 1983年値 (S.D=5.58) < 1982年値 (S.D=5.65) < 1981年値 (S.D=6.26) で過去の値より, ばらつきが最も少なく, 一様に体重が軽くなっていることを示している。身長の著しい伸びにもかかわらず, 体重が減少していることは文化・環境的要因と推察される。胸囲については, 1988年値 ( $\bar{X}=82.3$ ) は, 1983年値 ( $\bar{X}=81.4$ ) より0.9cm上廻っているが, 20年以前の1969年値 ( $\bar{X}=83.5$ ) より1.2cm下廻り, 1983年と1969年のほぼ中間に戻って来ることを示唆しているような結果をみたように考えられる点で, 興味がある。又, 標準偏差からみると, 1988年値 (S.D=4.26) で, 過去10年間で最も大であり, 個人差の大きいことも特徴づけられた。胴囲は, 1988年値 ( $\bar{X}=66.1$ ) は, 1983年値 ( $\bar{X}=61.1$ ) より5.0cm上廻っていて, 過去10年間でも, 最も高い値を示している。即ち, 胸囲と胴囲の差をみると, 1988年値では,

14.2cm, 1983年値では20.3cmであり, 1988年値は, 5年以前より6.1cm差が少なくなり, ずん胴になったことを示している。女子短大生の余暇の過ごし方(スポーツ: 8.3パーセント)にスポーツを取り上げた者が著しく少ないこと(野村晶子, 女子学生の生活態度・意識に関する調査結果; 家政研究第16号(1984), 第17号(1985), 文教大学女子短期大学部家政科)からも当然の結果であり, 美的見地からも, そして, 体力増進のためにも, スポーツをすることが望ましいようである。腰囲は, 1988年値( $\bar{X}=83.8$ )では, 過去10, 殊に1983年値( $\bar{X}=87.4$ )も含めて, 値が3.6cm低く, 示された。これも, 文化・環境的要因に依るものであろう。しかし, 個人差(S.D=3.95)もあるようである。背肩幅は, 1988年値( $\bar{X}=39.2$ )は, 1983年値( $\bar{X}=39.5$ )より0.3cm減少しているが, 個人差(S.D=4.04)は多いようである。背幅は, 1988年値( $\bar{X}=33.3$ )は, 1983年値( $\bar{X}=34.7$ )より, 1.4cm少なく, 又, 個人差(S.D=4.04)も大である。胸幅は, 1988年値( $\bar{X}=34.8$ )で, 1983年値( $\bar{X}=37.6$ )より2.8cm減少している。しかし, 1988年値, 及び, 1983年値, 共に個人差(S.D=4.44, S.D=4.55)はあるようである。即ち, 人体を平面的に計測した幅(背肩幅, 背幅, 胸幅)については, 過去5年より減少の傾向をみたが同時に, 個人差もある。胸の厚み(横断面)は, 1988年値( $\bar{X}=17.1$ )は, 1983年値( $\bar{X}=16.6$ )より0.5cm増加している。興味深いことには, 1979年値( $\bar{X}=17.1$ )の状態に回復, 一致した点である。(1979年値より1983年値まで, 減少し続けていた。)又, 各年値共, 一様に, ばらつき(S.D=1.4~1.6)は少ない。胴の厚み(横断面)は, 1988年値( $\bar{X}=14.7$ )は, 1983年値( $\bar{X}=14.0$ )より0.7cm増加している。又, 個人差(S.D=1.58, 1.21)も少ない。腰の厚み(横断面)は, 1988年値( $\bar{X}=20.0$ )は, 1983年値( $\bar{X}=19.8$ )より0.2cm値が高い。しかし, 10年前の1979年値よりは, 0.7cm低く, その意味では徐々に値の回復がみられる傾向があるようである。即ち, 人体の厚み(胸,

胴, 腰)を骨盤計で計測した結果, 5年以前の, 1983年値に低い結果を得て(人体の幅……背肩幅, 背幅, 胸幅は増加していた)いたので, いわゆる「ゴキブリ型」化(家政研究第14号(1982))して「スリム」であったが, 今回の結果では, 本来の状態に回復の現象がみられた。次に, 手の長さ(1)(肩から中指先)は, 1988年値( $\bar{X}=69.9$ )は, 1983年値( $\bar{X}=69.9$ )と全く一致した値であるが, それ以前の(1979年値, 1980年値, 1981年値, 1982年)より長くなっている。しかし, 個人差(S.D=4.42, 3.71)は大である。手の長さ(2)(肩からひじまで)は, 1988年値( $\bar{X}=31.6$ )は, 1983年値( $\bar{X}=31.0$ )より0.6cm長くなっている。又, 値のばらつきも少ない。手の長さ(3)(ひじから手首)は, 1988年値( $\bar{X}=23.6$ )は, 1983年値( $\bar{X}=23.3$ )より, 0.3cm長くなり, 又, 個人差も少ない(1988年値, 1983年値共に)。手の長さ(4)(手首から中指先)は, 1988年値( $\bar{X}=18.2$ )は, 1983年値( $\bar{X}=17.7$ )より0.5cm伸びていて, 過去10年以來, わずかながらも最高の値を示した。又, 標準偏差も1988年値は1.82, 1983年値では1.02で, ばらつきは少なくなっている。上述の通り, 手の長さ(1), (2), (3), (4)に関しては, 1988年値は身長と同じく伸びており, 骨へのCa塩の蓄積がみられる。手首廻わりは, 1988年値( $\bar{X}=15.0$ )は, 1983年値( $\bar{X}=14.9$ )を0.1cm上廻っているが(5年間の差は極く少ない), 今後もこの値の伸びは, わずかであろう。又, ばらつきも極く少ない(S.D=0.94, 0.81)。首廻わり(1)(中央)は, 1988年値( $\bar{X}=31.6$ )は, 1983年値( $\bar{X}=31.2$ )より, わずかに0.4cmではあるが上廻っている。この値は1979年値( $\bar{X}=31.6$ )と一致し, 値の回復がみられたことになる。首廻わり(2)(上部)は, 1988年値( $\bar{X}=32.4$ )は, 1983年値( $\bar{X}=32.3$ )よりも, わずか0.1cmではあるが, 上廻っている。首廻わり(3)(下部)は, 1988年値( $\bar{X}=36.2$ )は, 1983年値( $\bar{X}=36.1$ )よりも0.1cm上廻っている。即ち首廻わり(1), (2), (3)は, 1988年値は, 1983年値より, 大である。標準偏差からみれば首廻わり(3)(下部)が, 最も大で,

次いで首廻わり(2) (上部) が、個人差がみられ、首廻わり(1) (中央) は、個人差はやや少なめになる。首の長さ(前部)は、1988年値 ( $\bar{X}=8.6$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=8.6$ ) と、同じ値を示しているが、過去10年間でも差は極く少なく、個人差 (S.D=1.2) も少である。即ちほぼ一定とみてよいであろう。首の長さ(後部)は、1988年値 ( $\bar{X}=8.3$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=8.4$ ) より0.1cm少ない。ばらつき (S.D=1.2, 1.4) も少ない。皮下脂肪は、1988年値 ( $\bar{X}=1.4$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=1.4$ ) と、同じ値を示している。即ち、過去5年間は変動はないが、過去10年を追ってみると、1979年値 ( $\bar{X}=1.6$ )、1980年値 ( $\bar{X}=1.6$ ) で、0.2cmの差がみられ、皮下脂肪は大であったが、1981年値 ( $\bar{X}=1.4$ ) は、1988年値、1983年値と同じ値であり、又、1982年値 ( $\bar{X}=1.5$ ) では0.1cm高い値を示し、二峰性を示している。1988年値は、個人差 (S.D=3.00) がある。頭囲は、1988年値 ( $\bar{X}=55.0$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=54.9$ ) より、わずか0.1cm増加しているが、1981年値から、平均55cmの値を上下している。しかし、1988年値の標準偏差は、1.72であり、個人差はいくらかある。頭の厚み(横断面)は、1988年値 ( $\bar{X}=17.1$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=17.0$ ) より、わずか0.1cm増加している。個人差は少ない (S.D=0.24)。即ち、1979年値、1980年値にみた10年以前の頭囲は高いが、厚みは低く、頭部はやや扁平であったが、1981年値からは、頭囲が減少し、形態的には、立体的であるが、厚みの維持に依って認められるようである。

## 結論

身長は、1988年値 ( $\bar{X}=158.8$ ) は、20年前の1969年値 ( $\bar{X}=156.6$ ) より2.2cm伸び、又、5年以前の1983年値 ( $\bar{X}=158.0$ ) より0.8cm上廻っている。即ち、今後の計測では、その差は±0cmまで伸びる可能性はあるが、ここ数年先になろうかと推察される。遺伝的要因100パーセントを全うする環境的要因が整えばということであるが……。次に、やはり、骨へのCa塩蓄積の面から、手の長さをみる

と、1988年値は、1983年値と全く一致 ( $\bar{X}=69.9$ ) したが、ばらつき (S.D=4.42) はみられ、伸び切っていない Subject を抽出することによって満たされるのであろう。即ち、身長伸び、手の長さの伸びが著しかった。体型的には、ずん胴 (胴囲は増加、胸囲、腰囲は減少) になったが、1982年報の「スリム」、「ゴキブリ型」即ち、「扁平」は、回復し、頭の厚み、胸の厚み、胴の厚み、腰の厚みは増加した。又、「扁平」を象徴した、広い背肩幅、背幅、胸幅、の値も減少し、本来の状態に戻っている点で健康上好ましい結果を得た。しかし、個人差 (S.D=4.00以上) は大である。体重を取上げると、身長伸びから、当然、増加を予測したかったが、逆に、わずかながら、1988年値は1983年値を下廻り、又、20年以前の1969年値より0.7kg減少している。又、皮下脂肪については1988年値、1983年値共に1.4cmで、全く一致しているが、しかし、これは、個人差 (S.D=3.00) も大である。又10年以前の1979年値1.6cmより0.2cm減少している。そして、首廻わり (中央)、(上部)、(下部)、共に、過去7年値より上廻っている。ストレス耐性が大になりつつある経過をみるようで興味深い。首の長さは、前部は1988年値 ( $\bar{X}=8.6$ )、又、1983年値 ( $\bar{X}=8.6$ ) も、全く同じ値を示している。後部は1988年値 ( $\bar{X}=8.3$ )、1983年値 ( $\bar{X}=8.4$ ) で、5年前より、わずかに短くなった。最後に、頭部については、頭囲は1988年値 ( $\bar{X}=55.0$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=54.9$ ) より、わずか0.1cmではあるが増加したが、10年前の1979年値、1980年値よりは減少が著しい。頭の厚みは1988年値 ( $\bar{X}=17.1$ ) は、1983年値 ( $\bar{X}=17.0$ ) より、わずか0.1cm増加している。又、10年前の1979年値 ( $\bar{X}=17.2$ ) と、著しい減少もみられない。即ち、頭部は、10年以前より頭囲が著しく減少しているのかかわらず、頭の厚みには、減少がみられず、日本人本来の扁平な頭部の印象はみられず、1981年 (7年前) より、欧米人 Type の形態がみられたことになる。

1988年値では、はからずも5年以前の1983年値、

1982年値, 1981年値, 1980年値, 1979年値, そして, その推移, 及び20年以前の1969年値との比較から, はからずも, 文化・環境的要因(環境因子)から, 人体の骨格, それに伴う身体上の変化を, 現代という時代的背景の中に観察出来たように思われる。この点で, 人体の最後の発育・完成期でもある青年後期の Subject を通して, 遺伝因子100パーセントを全うすべき, 環境因子との関連に触れたことは, 幸であったし, 今後も研究を深めたい。

## 文献

- (1)野村晶子;女子高校生の Personality の成熟(附;身体発育と成熟)。日本女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修士論文, 1963。
- (2)野村晶子;女子高校生及び短大生の心理・身体発育過程の研究。家政研究, 立正女子大学短期大学部家政科, 1969。
- (3)野村晶子;女子短大正の心理・身体発育に関する研究。日本小児保健学会総会発表論文集, 小児保健研究, 1970。
- (4)野村晶子;女子学生の生理機能と Personality との関連(第5報)。日本心理学会第21回総会発表論文集, 1979。
- (5)野村晶子;マルチン人体計測器による身体各部位の計測値と身長, 体重, 胸囲, Rohrer 値に於ける10年間の推移(女子短大生の場合)。家政研究第13号, 文教大学女子短期大学部家政科, 1981。
- (6)野村晶子;マルチン人体計測器に依る身体各部位の計測値と, Rohrer 値, 及びフリッカー値について(第2報), 家政研究第14号, 文教大学女子短期大学家政科, 1982。
- (7)野村晶子;女子学生の生活態度・意識に関する調査結果, 家政研究第16号, 文教大学女子短期大学部家政科, 1984。
- (8)野村晶子;女子学生の生活態度・意識について, 日本心理学会第50回総会発表論文集, 1987。